

政策提案が実現！

与野中央公園 5000人アリーナ計画 中止が決定

市民の声が市政を動かした！

予算委員会で質問をおこなう
たけこし連

みなさま、ついにやりました。これまで中止を求めてきた「与野中央公園 5000人規模メインアリーナ建設計画」ですが、さいたま市議会 12月議会の市民生活委員会において、正式に中止の方針が報告されました！

市の公式文書には「メインアリーナ機能については与野中央公園内に整備することは極めて困難であることを考慮し、改めて別のエリアへの誘致／整備に関する検討をおこなう」と明記されました。これは与野中央公園には巨大アリーナは作らないという、市側の完全な「ギブアップ宣言」です。まちがいなく、声を上げ続けた市民の歴史的勝利です。

計画発表からの2年半、 全質問機会を追及し続けた理由

振り返れば、この2年半余、本会議や委員会など、私に質問の機会が巡ってくるたび、必ずこのアリーナ問題を中止すべきと主張してきました。計画発表直後から明確に「反対」を主張してきましたが、「もう決まったことなのに悪あがきだ」と、議会内で冷やかな視線を向けられることもありましたが、それでもあきらめず、徹底的に追及し続けたのは、与野中央公園周辺を歩けば「アリーナ反対」のポスターが至る所に貼られ、多くの住民が深い怒りと切実な不安を抱えている事実が、はっきりと可視化されていたからです。誰かが議会でとりあげなければ、市民不在のままコンクリートの巨大施設が押しつけられてしまう。その強い危機感こそが、私の原動力でした。

アリーナ計画2つの異常性

この計画の異常性は、何よりその「進め方」と「お金」にあらわれていました。この計画が正式発表されたのは2023年3月。当初の公園計画から大きく乖離しており、まさにトップダウンで強行されたものでした。さらに当初52億円とされていた予算は、議会への十分な説明もないまま131億円へと、2.5倍にも跳ね上がりました。しかし、この計画

が致命的だったのは、情報開示請求によって明らかになった企業との個別対話において、参画を期待されていた企業側から強烈なダメ出しが連発されていた事実です。

- ・「コロナ以降の物価エネルギー価格の高騰により、到底黒字は見込めない」（金融機関）
- ・「我々の試算では、収入超過は厳しい」（設計会社）
- ・「興行利用を望むのであれば1万人程度の規模が必要だが、立地環境（軟弱地盤等）からむずかしい。市民利用中心の事業にするべきだ」（金融機関）

アンケートでメインの金融機関となることが想定されていた銀行など、プロフェッショナルたちが事業の実現可能性を完全に否定していました。私はこの事実を議会で突きつけ、計画の白紙撤回を再三にわたり迫りました。

最大の決定打となった 「市民がつくった要求水準書」

しかし、市を最終的な撤退へと追い込んだ最大の功労者は、他でもない市民のみなさまです。

反対の声が無視できないほど大きくなるなか、ついに地元市議会議員全員が参加せざるを得ないかたちで、市民のみなさまとのオープンミーティングが開催されました。そこで徹底的に議論を交わし、騒音・振動対策、緑の保全など、行政に対して妥協のない極めて高いハードルを課した「要求水準書」をまとめ上げ、市長に提出しました。これはまさに市民運動の結晶です。

今回の計画中止の理由として、市は「現在の要求水準を維持したままの再公募では、市の財政負担の大幅な増加が見込まれる」と答えました。つまり、みなさまが団結してつくり上げたあの「要求水準書」が最後の強固な門番となり、市の無謀な計画を見事に打ち砕いたのです。

みなさまとともにこの公約を実現できたこと、そして与野中央公園の未来を守り抜いたことを、心から誇りに思います。

（裏面へ）





与野中央公園を

水と緑があふれる「真の市民の憩いの場」へ

市民生活委員会で質問をおこなう

では、アリーナ計画が白紙になった今、与野中央公園はどうなっていくのでしょうか。

バリケード撤去へ！工事中の「暫定利用（部分開放）」をかちとりました

現在、与野中央公園は高いバリケードで囲われています。私のもとには「アリーナ問題で先行きが見えないなか、バリケードを見ながら生活するのは苦痛」という声が届いていました。また、これまでグラウンドゴルフを楽しんでいた団体のみならず、安全なお散歩・外遊びの場所を奪われてしまった周辺の保育園の職員からも、早期の利用再開を望む声が強く上がっていました。

そこで私は議会で、「アリーナ建設に直接関係のない場所については、早期に整地して暫定的に市民に開放すべきだ」と求めました。これに対し、市の都市局長から「部分的な公園の供用の可能性について検討する」という、前向きな答弁を引き出すことができました。長期間の閉鎖を防ぎ、少しでも早くみなさまに公園の機能をお返すための大きな一歩です。

地元の子どもたちが楽しめる公園整備を



私が常日頃から思い描いているのは、アリーナの有無に関わらず、与野中央公園を「市民が心から誇れる最高の公園」にすることです。そのための具体的な提案も議会でおこないました。

一つ目が「親水機能（水遊び場）」の整備です。中央区では今後、区役所再編計画によって下落合プールの屋外機能がなくなることが決まっており、子どもたちが外で水に親しむ場所が失われてしまいます。そこで私は、公園内に子どもが遊べる水遊び場を求めました。市からは、「じゃぶじゃぶ池のような施設は、今後の実施設計に合わせて検討する」との答弁がありました。

二つ目が「子どもたちが思い切りボール遊びをできる場所」の確保です。現在、中央区内の多くの公園には「ボール遊び

禁止」の看板が立ち、子どもたちがボール遊びできる場所が極端に不足しています。これだけ広いスペースを持つ与野中央公園だからこそ、この機能は絶対に実現させなければなりません。私がこの点を追及したところ、市は「利用者のマネーも重要になるが、調節池の底面を主なエリアとして、ボール遊びが可能なエリアの検討を進める」と明言しました。周囲が囲まれた調節池の底面を活用すれば、ボールが道路に飛び出す危険も少なく、子どもたちが安全にのびのびと走り回れる素晴らしい空間になります。

「見る」から「する」へ 新・与野体育館も市民役に



さらに、老朽化した現在の与野体育館は、プロ興行用の巨大施設ではなく、市民のみならずの日常的なスポーツ活動を中心とした「するスポーツ」のための体育館として、与野中央公園内に移転・再整備されます。広さは現在の1080㎡から1500㎡へ拡大し、観客席（700～1000席）も設けられ、市民ファーストの施設へと生まれ変わります。

未来の公園づくりは、これからが本番です！

毎回の議会質問でしつこく食い下がってきたこの問題。市民のみならずと固く連帯することで、巨大なアリーナ計画を止めるに至りました。しかし、私たちの真の目的は「計画を反対して潰すこと」ではありません。これからは、かちとったこの広大なキャンパスに、どんな遊具を置くか、どんな水辺をつくるか、市民参加でデザインしていく「創造」のフェーズに入ります。市も議会で「地元の意見をうかがいながら」と何度も答弁しています。アリーナ計画を打ち砕いた市民のみならずの圧倒的なパワーを、今度は「最高の公園を創り上げるパワー」へと転換していく時です。

これからも「みんなで創るよりよい与野」を合言葉に、みなさまの声を市政にダイレクトに届け続けます。

日本共産党 さいたま市議会議員

たけこし 連



●たけこし連事務所 下落合 5-10-3 (法務局向かい)
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165

無料生活相談 毎週水曜日 13時30分～16時

無料法律相談 第4金曜日 13時30分～(要予約)
弁護士が相談にのります

日本共産党さいたま市議会議員団 議会報告 発行：日本共産党さいたま市議会議員団 2026年3月

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 6-4-4 さいたま市役所内 TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165



市議員 T P